

URAL バルブクリアランス点検調整（画像は750ccモデル）

調整はエンジン冷間時に実施する

- 00 クランクケース左側フライホイール部にある黒色ゴムキャップを外します。
キックペダルを操作して上死点に合わせてます。はじめに現れるポンチマークのある矢印は
点火時期用の合わせマークです。次に現れる矢印が上死点マークです。
クランクケースの切欠きと一致する位置が上死点です。



- 01 圧縮上死点合わせ



0 2 ヘッドカバー脱着

スパナを用いてキャップナットを緩め外します。(本来のサイズは1 2ミリです)

素手でカバーが取れない場合はプラスチックハンマーや木片で軽くカバーを叩けば取れます。



0 3 バルブクリアランス測定

シクネスゲージを用いて間隙を測定します。

吸排気ともクリアランスが無い場合は圧縮上死点ではなくオーバーラップ位置なので

反対側シリンダーの点検調整をするかキックペダルでクランクシャフトを一回転させます。

上死点には圧縮上死点とオーバーラップがあります。

クリアランスは0 . 1 0 ~ 0 . 1 5ミリです。

大きすぎたり、少ない場合はロックナットを緩めて再調整します。



04 クリアランス調整

ロックナット（SW12かSW13ミリ）を緩めて、アジャストスクリュー（SW10ミリ）を回転させシクネスゲージが抵抗を持ちながら抜ける程度でロックします。画像03を参照（羊羹を包丁で切るときの抵抗でゲージが抜けるのがベストとベテランは言います）



05 プッシュロッド回転チェック

圧縮上死点においてプッシュロッドは抵抗無く指で回転しなければなりません。



画像では左シリンダーの吸気側を調整しています。排気側も同じ要領で点検調整します。

右シリンダーの作業はキックペダルを操作してクランクシャフトを一回転させて行います。（このまま状態では右シリンダーはオーバーラップ位置にあるため点検調整できません）